

## 大阪府立布施工科高等学校 令和4年度 学校教育自己診断の結果と分析(令和4年12月実施)

### 【学校生活】「学校が楽しい」

	肯定的評価			否定的評価		
	R3	R4	±	R3	R4	±
生徒	75%	76%	1% Up	25%	24%	1% Down
保護者	79%	77%	2% Down	22%	21%	1% Down

- 1人1台端末の導入がなされ、いままでよりも一層生徒が楽しく学べる環境、興味を持てる実習教材・授業・実習を構築することが重要である。コロナ禍で学校行事が制限されたなかではあるが、徐々にコロナ前の状況に戻りつつある。より安全で安心な学びの場づくりに向けた取り組みを実践していかなければならない。

### 【学習指導】「わかる授業」

	肯定的評価			否定的評価		
	R3	R4	±	R3	R4	±
生徒	79%	87%	8% Up	21%	13%	8% Down
教職員	89%	95%	6% Up	11%	5%	6% Down

- 生徒も教職員も、肯定が増加していることから、1人1台端末の導入で、昨年度よりも教員が教材研究を行い、授業の工夫・改善に取り組み、ICTを活用している成果が表れている。

次年度も基礎学力向上にも力を注ぎ、ICTの活用方法の工夫、改善が必要である。

教員が生徒に寄り添った、ICTを活用した「わかりやすい授業づくり」を推進する必要がある。

### 【生徒指導】「適切である」

	肯定的評価			否定的評価		
	R3	R4	±	R3	R4	±
生徒	73%	79%	6% Up	27%	21%	6% Down
保護者	64%	83%	19% Up	23%	17%	6% Down

- 生徒・保護者の肯定がともに増加し、本校の生徒指導が「適切である」という理解が80%近く得られている。

今後も生徒・保護者の期待する確性や客観性に基づいた指導を実践し、家庭との連絡を密にとりながら、より一層個々の生徒に合わせた丁寧な生徒指導を行う必要がある。

### 「納得できる」

	肯定的評価			否定的評価		
	R3	R4	±	R3	R4	±
生徒	78%	82%	4% Up	22%	18%	4% Down
保護者	83%	82%	1% Down	17%	18%	1% Up

- 「生徒指導への納得」について生徒・保護者の肯定が共に約80%以上に達し、否定が10%台に減少している。

日頃先生方が懇切丁寧な指導を心掛け、生徒・保護者が納得した指導が徹底されていることがうかがえる。

今後も生徒・保護者が求める指導方法の模索と共通理解、家庭との連絡や対話を更に密にしての生徒指導が必要である。

**【キャリア教育】「インターンシップ等の取組み」**

	肯定的評価				否定的評価			
	R3	R4	±		R3	R4	±	
生徒	58%	65%	7%	Up	42%	35%	7%	Down
保護者	85%	94%	9%	Up	15%	6%	9%	Down

□今年度の「インターンシップ」は、新型コロナ感染症が心配される中でも、参加希望者が2年生の94%という状況で実施することができた。コロナ禍でも学校外で実践的に学べる経験が、肯定意見の増加につながり、「インターンシップ」に対する満足感が大きかったことがうかがえる。令和6年度のデュアルシステムの本格導入に向けて、生徒・保護者の期待に応えるよう、今後も本校重点施策として取り組む必要がある。

**【進路指導】「職業観・勤労観の育成」**

	肯定的評価				否定的評価			
	R3	R4	±		R3	R4	±	
生徒	89%	93%	4%	Up	11%	7%	4%	Down
保護者	85%	90%	5%	Up	15%	10%	5%	Down

□肯定が90%台に増加。90%超の肯定は、今までのキャリア教育の積み重ねである。引き続き、望ましい職業観・勤労観の育成の充実を個々の生徒に合わせて、丁寧に行う必要がある。

**【人権教育】「学ぶ機会が多い」**

	肯定的評価				否定的評価			
	R3	R4	±		R3	R4	±	
生徒	90%	92%	2%	Up	11%	8%	3%	Down
教職員	89%	88%	1%	Down	11%	12%	1%	Up

□すべての人々の尊厳が守られ、基本的人権が尊重されることは、民主的な社会の基礎をなすものであり、こうした21世紀の社会の実現のためには、豊かな国際感覚と人権感覚を身につけることが求められます。人権教育は、あらゆる教育活動のベースとなる。私たちは、互いに違いを認め合い、共に学ぶ学校を築いていかなければなりません。今後も人権意識の醸成のため、生徒、教職員対象の人権研修を積極的に行い、人権教育のより一層の充実を図る必要がある。

**【いじめ】「いじめ対応」**

	肯定的評価				否定的評価			
	R3	R4	±		R3	R4	±	
生徒	85%	88%	3%	Up	15%	12%	3%	Down
教職員	96%	100%	4%	Up	4%	0%	4%	Down

□「いじめは絶対に許されるべきものではない」という強い姿勢、いじめの未然の防止対策が重要である。教職員の肯定が初めて100%を達成し、本校職員の意識の高さがうかがえる。今後も迅速に対応できる校内体制の充実を図り、本校の指導方針について生徒や保護者に共通理解していただくとともに、「安全で安心な学びの場づくり」を学校全体で行う必要がある。